

人文研紀要

第67号～第68号(2010年)

◆第67号—2010年(2010年3月発行 A5版599頁)

「創立30周年記念号」の刊行にあたって	所長 石井 正敏
<エッセイ> 創立30周年に想う	鈴木 重生
思い出す人文研の運営	深澤 俊
<論文> HrothgarとUnferth —Unferth Intermezzo再考—	唐澤 一友
ドイツ中世英雄叙事詩『ヴォルムスの薔薇園』の修士イルザン	渡邊 徳明
神の表現と回心 —1640年代のキリスト教悲劇を中心に—	千川 哲生
「プロメテウス」について —R.ペローの『宝石特集』の場合—	相田 淑子
ドクター・ジョンソンとアイルランド —ジョンソンはなぜアイルランド人に好意的であったのか—	江藤 秀一
大革命前後におけるフランス16世紀文学の受容 —アナール・ポエティックとコレクシオン・ペラン—	高橋 薫
生成するヴィジョン —ブレイクの『ミルトン』—	土屋 繁子
キーツの自然美学	森松 健介
アポロ像に恋して狂死したフランス乙女の系譜 —廃墟と化した廃墟趣味(バイロンの場合)—	笠原 順路
悲劇のなかの笑い —トマス・ハーディの小説を考察する—	深澤 俊
激動の時代に生まれた“普通の”女の生涯	井上 美沙子
島村抱月と本間久雄	平田 耀子
20世紀文学と時間・補記	岡本 正明
クラスナホルカイ・ラースローの源氏物語 —『北は山、南は湖、西は道、東は川』論—	縄田 雄二
ドイツ文学と環境	平山 令二
M.ビュートルの作品における都市 —『時間軸』・『心変わり』—	鈴木 重生
“ない”の発見(学問への懐疑)	松本 道介
食の伝統 薬食い	小山田 義文
蘭学者と漢学 —聖人の存在と華夷思想—	岸田 知子

◆第68号—2010年(2010年3月発行 A5版689頁)

Leaders and Laggards of Language Change: Nominal Plural Forms in -s in Early Middle English	Ryuichi HOTTA
The Street as a Changing Social Arena in Medieval Europe	Harald KLEINSCHMIDT
Why Do We Need to Practice an Auto-ethnography in the High School?: Analysis of a "Good Student" Conception through Research Findings of California and Japanese Education	Masayoshi KOGA
第2外国語としてのスペイン語の授業を考える —1年を通じた学生へのアンケート調査から—	浦 眞佐子
BNCwebの基本機能と品詞標識付与の問題	新井 洋一
日本語のテンスの表現 —「スル」と「シタ」について—	野田 時寛
ライブニッツの論理	古田 裕清
世代間倫理と未来世代の権利	寺本 剛
小説情報のメタデータ —記録情報学からの考察—	斉藤 孝
魔魁の使徒バガニーニ	須磨 一彦
悪魔と富の比較神話学試論	沖田 瑞穂
武州御嶽山に見るヤマトタケル由緒の創出と展開	岩橋 清美
『遠野物語』誕生の事蹟考	田野崎 昭夫
大アミール・トゥーズーンの経歴に関する考察	柴山 滋
ジムリ・リム治下のマリ王国の遊牧民支配 —放牧地の長メルフム役人の役割を中心に—	中田 一郎
田中首相・ニクソン大統領会談記録 —1972年8月31日、9月1日—	服部 龍二
フランコフォニーとフランス文化外交 —文化的多様性と矛盾するフランス共和主義—	長谷川 秀樹
日本留学と東北海軍の発展 —満州事変まで—	馮 青
富岡製糸場の創設地論考	鈴木 芳行
享保年間の遠国奉行あて幕府発給文書をめぐって	清水 紘一
吏の移動と「宿」 —「始皇三十四年曆譜」「元延二年日記」を手がかりにして—	飯島 和俊
明代軍匠籍の進士について	川越 泰博
明朝遼東総兵官考 —洪武年間の場合—	荷見 守義
戦後国共内戦・一九四五年	斎藤 道彦